

故人をお迎えする お盆の習わし

しょう りょう だな 精霊棚とは？

お盆にご先祖様を迎え入れるにあたり様々な準備が必要です。迎え火・マコモごぎ・精霊馬・水の子などを飾る精霊棚がその一つです。地域や家庭によって、精霊棚に飾るものは多種多様です。今回は興正寺が伝えてきた由緒ある盆飾りの準備をご説明させていただきます。

● 迎え火 ●

ご先祖様があの世からこの世に向かうとき、迷わず辿り着けるように目印としたのが迎え火です。盆提灯やたいまつで火を焚いたり、ほおずきを盆提灯に見たててお供えしたりもします。

● マコモごぎ ●

精霊棚を設える際、はじめにマコモごぎを敷きます。お釈迦様がマコモで編んだ寝床に病人を寝かせて治療されたと言われていたことから敷かれるようになりました。

● 水の子 ●

洗った米とさいの目に切ったナスとキュウリを盛りつけてお供えします。たくさんの御霊をお迎えするとき「すべての御霊に食べ物が行き届くように」という思いから始まったとされています。その他には、季節の果物・そうめん・お膳など、たくさんの食べ物をお供えします。



● しょう りょう うま 精霊馬 ●

キュウリ、ナス、割り箸または爪楊枝を用意し、それらでキュウリの馬とナスの牛を作ります。ご先祖様に早く帰ってきていただくためにキュウリの馬を用意し、あの世に戻るときには供物をたくさん積んでゆったり帰れるようにとナスの牛を作ります。供物にならぶ初物の収穫物は、飢えの季節の終わりを喜び、豊かな実りへの感謝をあらわしています。精霊棚には、生きることの喜びや亡き人への想いが色鮮やかに飾られているとも言えるでしょう。

私たちが亡くなった故人に対してたくさんの想いを伝える方法の一つがお盆で、故人が亡くなってから初めて家に帰ってくるのが「初盆」です。

日頃のご先祖様への感謝の気持ちを大切に守り続けていきましょう。

